



婦人と子ども

第十二卷第三號

三月

をんどりよろこ 牡雞は歡びの聲をあけ

をがわみづやうくとして流れ 小川の水は濺々として流れ

ことりまへつ 小鳥轉り

このん 湖面きらめき

みどりののちろくわうよくねむる。 緑の野は日 光に浴して眠る。

をいし者若き者 老いし者若き者

みな 皆つとめいそしみ

くさは かひうしら 草を食む飼牛等

いろうくかうべた 悠々頭を垂れて

とつ 五十頭一つの如し

やぶ 敗れたる軍のさまに

ゆききしりぞ 雪は消え退きて

いま 今しいとまな告げてゆく

かをかいたいき 彼の丘の頂に。

のうとうときあ 農童は関を揚ぐ——縲りかへしく

やまくくわんき 山々に歡喜あり

いづみ 泉には生命ありと。

へんうんたげよ 片雲 深 びのがれ

そつくつか 蒼空 勝ち びこり

あめさす 雨去り過ぎてあともあるなし。

(ワオルツオース)